

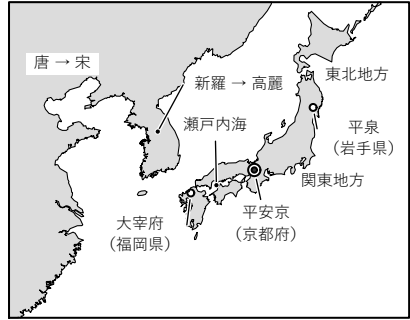
1 全体像	2・3 桓武天皇	4・5 藤原氏	6・7 国風文化	8・9 武士	10・11 院政と平氏	12 まとめ
-------	----------	---------	----------	--------	-------------	--------

1 この単元の全体像 ― 政治を動かす人は、どう変わった？

このページのゴール
 平安時代の約400年で、政治を動かす人が天皇 → 藤原氏 → 上皇 → 武士と移り変わった流れと、この単元で学ぶ5つのことを、ざっと言える

⑧では、天皇を中心とする律令国家ができ、のちに墾田永年私財法で公地公民がくずれ始めたことを学びました。794年、都が京都の平安京に移り、約400年の**平安時代**が始まります。律令の政治は立て直されますが、やがて藤原氏（ふじわらし）、上皇（じょうこう）、そして武士が、政治を動かすようになります。小学校で学んだ藤原道長・紫式部・平清盛も、この流れで見直します。

奈良時代（710年から約80年）	平安時代（794年から約400年）	次の時代（単元⑩）
都は平城京。仏教の文化が栄えた	都は平安京。政治を動かす人が移り変わった	鎌倉に幕府ができる



地図：Natural Earth

- ① 桓武天皇（かんむてんのう）の政治と新しい仏教
 くわしくは2・3ページ

都を平安京に移した理由を学びます。
- ② 摂関政治（せっかんせいじ）と荘園（しょうえん）
 くわしくは4・5ページ

藤原氏が実権をにぎったしくみを学びます。
- ③ 国風文化（こくふうぶんか）と浄土信仰
 くわしくは6・7ページ

日本らしい文化と信仰を学びます。
- ④ 武士の成長
 くわしくは8・9ページ

武士が力を認められたわけを学びます。
- ⑤ 院政（いんせい）と平氏の政治
 くわしくは10・11ページ

武士が政治を動かすまでを学びます。

この単元の問い
 平安時代、政治を動かす人は、なぜ天皇から藤原氏、上皇、武士へと移り変わった？（答えは12ページ）

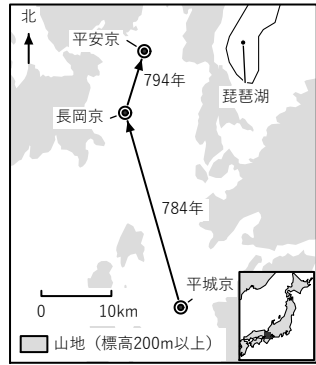
この単元の解説記事（図と例題つき）：[かてきょノート \(katekyo-note.com\)](https://katekyo-note.com/)
<https://katekyo-note.com/%e3%80%90e4%b8%ad1%e7%a4%be%e4%bc%9a%e3%83%bb%e6%ad%b4%e5%8f%b2%e3%80%91%e5%b9%b3%e5%ae%89%e6%99%82%e4%bb%a3%e3%81%ae%e8%a6%81%e>

2 桓武天皇は、なぜ都を平安京に移した？

このページのゴール 794年に桓武天皇が都を平安京に移した理由と、坂上田村麻呂を東北地方に送って支配を広げたことを言える

① 都を移した理由

- ① 奈良の寺院（仏教の勢力）が、政治に大きな力をもつようになった
- ② 律令にもとづく政治がゆるんだ
- ③ 784年、桓武天皇は、都を長岡京に移した
- ④ 794年、さらに都を平安京に移し、政治を立て直そうとした



標高：NOAA ETOPO 2022 地図：Natural Earth

	平城京	平安京
年	710年	794年
場所	奈良（奈良県）	京都（京都府）
手本	どちらも唐の都・長安（道路が碁盤の目のよう）	

平安京＝桓武天皇が、794年に移した京都の都。平安京に都が移ってから、鎌倉に幕府ができるまでの約400年間は平安時代という

② 東北地方への大軍

東北地方には、朝廷の支配に従わなかった蝦夷（えみし）とよばれる人々がいました。桓武天皇は、坂上田村麻呂（さかのうえのたむらろ）を征夷大將軍に任命し、東北地方に大軍を送りました。蝦夷の指導者アテルイは降伏し、朝廷の支配は東北地方に広がりました。

征夷大將軍＝はじめは、蝦夷を従わせるための軍の総大将（のちの「武士のかしら」の意味とはちがう）

桓武天皇がしたこと	ねらい
都を移す	寺院の勢力からはなれて、政治を立て直す
国司（地方の役人。⑧）の監督を強める	地方の政治を立て直す
東北地方に大軍を送る	支配を東北地方に広げる

注意 × 平安京は、今の奈良につくられた → ○ 京都につくられた（奈良は平城京）

合言葉 「政治を立て直しに、都は京都の平安京へ」

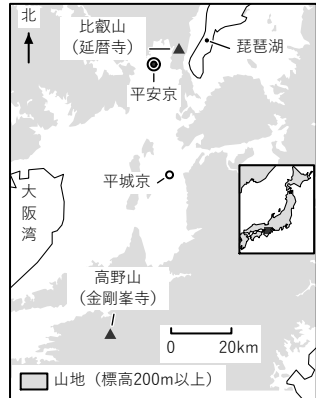
3 最澄と空海の仏教は、奈良時代の仏教とどうちがう？

このページのゴール 唐で学んだ最澄と空海が開いた宗派・山・寺と、山奥の寺で修行する新しい仏教の特色を言える

① 唐で学んだ2人

2ページで、桓武天皇は、政治に口を出す奈良の寺院からはなれて平安京に移りました。そのころ、遣唐使とともに唐にわたった2人の僧が、帰国して新しい宗派を開きました。最澄（さいちょう）と空海（くうかい）です。2人は山奥の寺で修行し、国家や貴族のためにいのり（祈とう）を行ったので、貴族の信仰を集めました。

人	宗派	山	寺	山のある所
最澄	天台宗	比叡山	延暦寺（えんりゃくじ）	滋賀県と京都府の境
空海	真言宗	高野山	金剛峯寺（こんごうぶじ）	和歌山県



標高：NOAA ETOPO 2022 地図：Natural Earth



延暦寺の根本中堂
（滋賀県大津市）



金剛峯寺
（和歌山県高野町）

写真：663highland（CC BY 2.5）、Zairon（CC0）。Wikimedia Commonsより、白黒にして切り取った

比叡山は平安京の北東（滋賀県と京都府の境）、高野山は和歌山県にあります。延暦寺も金剛峯寺も、都の中ではなく、山の中の寺です。

② 奈良時代の仏教とのくらべ

	奈良時代の仏教（⑧）	最澄・空海の仏教
寺のある所	都（平城京）の大きな寺や、国ごとの国分寺	山奥
天皇や朝廷との関わり	聖武天皇が国を守るために東大寺や国分寺を建てた。やがて寺院が政治に力をもった	国家や貴族のためにいのり、貴族の信仰を集めた

ー 政治からはなれた山奥で、唐で学んだ新しい仏教が広まった

注意 × 最澄は高野山、空海は比叡山で教えを広めた → ○ 逆。最澄は比叡山、空海は高野山

合言葉 「最澄は天台宗で比叡山、空海は真言宗で高野山」

4 藤原氏は、どうやって政治の実権をにぎった？

このページのゴール 娘を天皇のきさきにし、生まれた子を天皇に立てて、天皇の母方の祖父として摂政・関白になった摂関政治のしくみを、図を見て言える

① 藤原氏が力をもったしくみ

藤原氏は、⑧で学んだ中臣鎌足の子孫で、9世紀から10世紀にかけて力をのばしました。

- ① 娘を、天皇のきさきにする
- ② 生まれた子を、次の天皇に立てる
- ③ 天皇の母方の祖父として、力をふるう
- ④ 天皇が幼いときは摂政（せつしょう）、成人してからは関白（かんぱく）として、政治の実権をにぎる（この政治を摂関政治という）

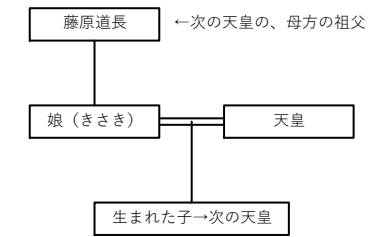


図1 摂関政治のしくみ（二重線＝結婚、縦の線＝親子）

	摂政	関白
いつ	天皇が幼いとき	天皇が成人したあと
すること	天皇に代わって政治を行う	天皇を助けて政治を行う

くらべ	⑧の聖徳太子	藤原氏
だれが	皇族	貴族
天皇との関係	おばの推古天皇を助けた	天皇の母方の祖父
つく職	摂政	摂政・関白

② 藤原道長と望月の歌

11世紀前半、藤原道長（みちなが）とその子藤原頼通（よりみち）のころ、摂関政治は最も栄えました。道長は摂政になりましたが、関白にはなっていません（関白になったのは子の頼通です）。道長は、次の歌をよみました。

史料 藤原道長の歌

この世をば わが世とぞ思ふ 望月の 欠けたることも なしと思へば
（意味）この世は自分のためにあるようなものだ。満月が欠けていないように、自分の思いどおりにならないことは何もないのだから。
（やさしく書きかえた）

→ 天皇の母方の祖父の藤原氏が、摂政・関白として政治を動かした

注意 × 摂関政治では、藤原氏が天皇になった → ○ 天皇の母方の祖父として、摂政・関白に。 × 摂政は、成人した天皇を助ける職 → ○ それは関白。摂政は幼い天皇に代わる

合言葉 「幼い天皇には摂政、成人した天皇には関白」

5 10世紀、土地と地方の政治はどう変わった？

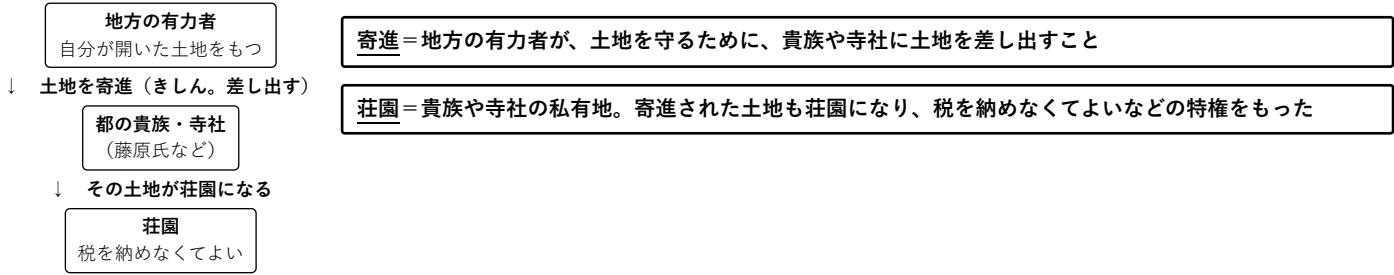
このページのゴール 国司にまかせきりの地方の政治と、有力者が土地を寄進して荘園が藤原氏に集まった流れを、律令のころからの変化と言える

① 地方の政治が乱れた

⑧の墾田永年私財法で、貴族・寺社・豪族の私有地（のちの荘園）が生まれ、公地公民がくずれ始めました。それから時がたった10世紀ごろ、地方の政治はどうなっていたのでしょうか。

- ① 朝廷は、地方の政治を国司にまかせきりにするようになった
- ② 税を重く取り立てて自分の財産を増やす国司も現れ、地方の政治は乱れた
- ③ 地方の有力者は、自分が開いた土地を守るため、都の有力な貴族や寺社に土地を寄進した
- ④ 寄進された土地（荘園）は、税を納めなくてよいなどの特権をもった
- ⑤ 藤原氏などに多くの荘園が集まり、その収入が藤原氏の力を支えた

② 寄進と荘園



③ 律令のはじめとのくらべ

	律令のはじめ（⑧）	10世紀
土地	国のもの（公地公民）	貴族や寺社の荘園が広がる
地方の政治	国司が律令にもとづいて治める	国司にまかせきりで乱れる
政治の中心	天皇と太政官	藤原氏が摂政・関白として政治を動かす

→ 荘園の収入が藤原氏の力を支え、公地公民のしくみはさらにくずれた

注意 × 荘園は、国が人々にあたえた土地 → ○ それは口分田（⑧）。荘園は貴族や寺社の私有地

合言葉 「土地を守るため寄進、荘園は藤原氏へ」

7 国風文化では、どんな作品と信仰が生まれた？

このページのゴール かな文字の文学（古今和歌集・源氏物語・枕草子）と寝殿造・大和絵、浄土信仰と平等院鳳凰堂を言える

① 文学・住まい・絵

かな文字で、日本人の感情を自由に書き表せるようになり、とくに宮廷に仕える女性たちが、すぐれた作品を書きました。天皇のきさきのまわりには、教養や才能のある女性が仕え、紫式部や清少納言もきさきに仕えました（4ページで、藤原氏は娘を天皇のきさきにしました）。

作品	作者	種類
『古今和歌集』	紀貫之（きのつらゆき）ら	天皇の命令でまとめられた、かな文字の和歌集
『源氏物語』	紫式部	長編の物語
『枕草子』	清少納言	随筆

貴族の住まいは、広い庭と池があり、建物を廊下でつないだ寝殿造。絵は、日本の風景や人々のようすをえがいた大和絵です。

② 浄土信仰と平等院鳳凰堂

浄土信仰＝念仏を唱え、阿弥陀仏にすがって、死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う信仰

- ① 社会の不安が高まった
- ② 念仏（南無阿弥陀仏）を唱え、阿弥陀仏にすがる
- ③ 死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う

10世紀の中ごろ、空也（くうや）が都で念仏を広めました。11世紀には貴族の間にも広まり、阿弥陀堂がつくられました。藤原頼通が京都の宇治に建てた平等院鳳凰堂（びょうどういんほうおうどう）は、その代表です（10円硬貨にもえがかれています）。



平等院鳳凰堂
（京都府宇治市）



阿弥陀如来像
（平等院鳳凰堂）

写真：Suicasm (CC BY-SA 4.0)、『Japanese Temples and Their Treasures』1910（パブリックドメイン）。Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った

くらべ	最澄・空海の仏教（3ページ）	浄土信仰
何をする	山奥の寺で修行し、国家や貴族のためにいのる	念仏を唱え、阿弥陀仏にすがる

注意 ×『源氏物語』は清少納言、『枕草子』は紫式部が書いた → ○ 逆。源氏物語は紫式部、枕草子は清少納言

合言葉 「源氏物語は紫式部、枕草子は清少納言」

8 武士は、どのようにして力を認められた？

このページのゴール 10世紀ごろ武芸を専門とする武士が現れて武士団をつくり、朝廷が地方の反乱を武士の力でしずめたことで、武士の力が認められたことを言う

① 武士の登場

5ページで、地方の政治が乱れ、人々は自分の土地を守る必要が高まったことを学びました。そのころ、弓矢や乗馬などの武芸を専門とする人々が力をつけました。

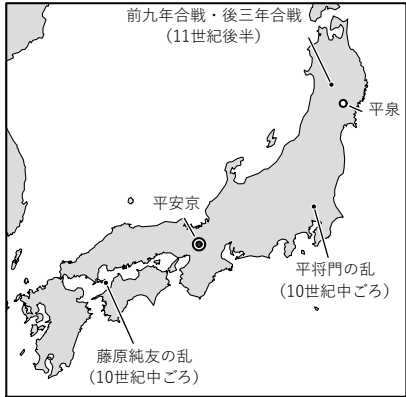
武士＝武芸を専門とする人々。一族や家来を率いて**武士団**をつくった

	武士の役目
都で	天皇の住まいや貴族の屋敷を警備する
地方で	国司の下で治安を守る。自分たちの土地を守る

② 地方の反乱

反乱	いつ	どこ
平将門の乱（たいらのまさかどのらん）	10世紀中ごろ	関東地方
藤原純友の乱（ふじわらのすみとのらん）	10世紀中ごろ	瀬戸内海

- 10世紀中ごろ、関東で平将門、瀬戸内海で藤原純友が反乱を起こした
- 朝廷は、自分の力ではしずめられなかった
- 武士の力で、反乱をしずめた
- 武士の力が認められていった



地図：Natural Earth

→ 朝廷が反乱をしずめるのに武士の力を使い、武士の力が認められた

注意 × 武士の力で、朝廷を倒した → ○ 朝廷の反乱をしずめる側として、力を認められた

合言葉 「将門は関東、純友は瀬戸内海」

9 源氏と平氏は、どこで勢力を広げた？

このページのゴール 天皇の子孫の源氏と平氏が武士団のかしら（棟梁）となり、源氏は東日本、平氏は西日本に勢力を広げたことと、奥州藤原氏を言える

① 源氏と平氏

源氏と平氏 = 天皇の子孫で、武士団のかしら（**棟梁**。とうりょう）として力をもった

	勢力を広げた所	しずめた戦い
源氏	東日本	東北地方の大きな戦い（ <u>前九年合戦</u> ・ <u>後三年合戦</u> 。11世紀後半）
平氏	西日本	瀬戸内海の家来

8ページの地図で、東北地方と瀬戸内海の間所をもう一度確かめましょう。

② 奥州藤原氏

東北地方では、**奥州藤原氏**（おうしゅうふじわらし）が**平泉**（ひらいずみ。岩手県）を拠点に力をもちました。奥州藤原氏は、**中尊寺金色堂**（ちゅうそんじこんじきどう）を建てました。

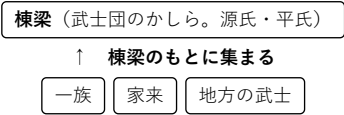
平泉は、8ページの地図で○の印がある場所です。



中尊寺金色堂の内部
(岩手県平泉町)

写真：『Japanese Temples and Their Treasures』1915
(パブリックドメイン)。Wikimedia Commons より、白黒にした

③ 武士団のしくみ



→ 源氏は東日本、平氏は西日本で、武士のかしらとして力をのばした

注意 × 源氏と平氏は、もとは地方の農民だった → ○ 天皇の子孫

合言葉 「源氏は東、平氏は西」

10 院政の中で、武士はどうやって政治を動かすようになった？

このページのゴール 1086年に白河上皇が始めた院政と、保元の乱・平治の乱で武士の力が政治を動かすようになった流れを言える

① 院政

藤原氏と血のつながりのうすい天皇が現れ、藤原氏の力がおとろえてきました。

院政＝天皇の位をゆずった上皇が、院で政治の実権をにぎり続ける政治。1086年、白河天皇（しらかわてんのう）が位をゆずって上皇となり、始めた。上皇やその住まいを「院」とよんだ

	摂関政治	院政
だれが	藤原氏	天皇の位をゆずった上皇
どんな立場で	天皇の母方の祖父として、摂政・関白の職について	上皇として、院で
荘園が集まった所	藤原氏	上皇にも多く集まった

② 武士が政治を動かすまで

- ① 1156年、保元の乱（ほうげんのらん）。天皇と上皇の争いに、藤原氏の争いも結びついた。源氏も平氏も、一族が両方に分かれて戦い、武士の力で勝敗が決まった
- ② 1159年、平治の乱（へいじのらん）。平清盛（たいらのきよもり）が源義朝（みなもとのよしとも）を破った
- ③ 武士の力が、政治を動かすようになった



平治の乱をえがいた絵巻物（一部）
（ボストン美術館）

絵：『平治物語絵巻』13世紀（著作権切れ）。
Wikimedia Commons より、
白黒にして切り取った

→ 上皇や貴族の争いの勝ち負けを、武士の力が決めるようになった

注意 × 保元の乱は、源氏と平氏が戦った → ○ 天皇と上皇の争いで、源氏も平氏も一族が両方に分かれた

合言葉 「摂関政治は藤原氏、院政は上皇」

11 平清盛は、どのようにして力をもった？

このページのゴール 平清盛が武士として初めて太政大臣になり、藤原氏と同じやり方で朝廷の中で力もち、日宋貿易で富を得たことを言える

① 平清盛が力をもつまで

- ① 平治の乱に勝つ
- ② 1167年、武士として初めて太政大臣（だいじょうだいじん。朝廷の最高の職）になった
- ③ 娘を天皇のきさきにし、生まれた子を天皇に立てた
- ④ 一族が朝廷の高い地位につき、多くの荘園をもった

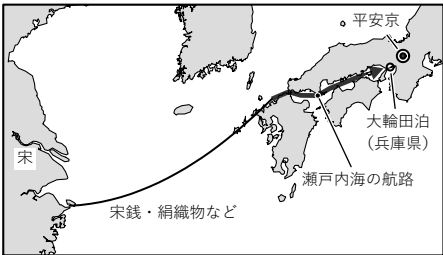
② 藤原氏とのくらべ

	藤原氏	平清盛
どんな家	貴族（中臣鎌足の子孫）	武士（平氏の棟梁）
ついた職	摂政・関白	太政大臣
天皇との関係	どちらも、娘を天皇のきさきにし、生まれた子を天皇に立てた	
富のもと	荘園	荘園と日宋貿易

③ 日宋貿易

日宋貿易＝宋との貿易。平清盛は、兵庫の港（大輪田泊。おおわだのとまり）や瀬戸内海の航路を整えた

宋の銅銭（宋銭）や絹織物などを輸入し、大きな利益を得ました。
平氏の政治に、貴族や寺社、各地の武士の不満が高まっていました（→ 次の単元⑩）。



地図：Natural Earth

→ 武士が朝廷の最高の職につき、政治の実権をにぎった

注意 × 日宋貿易で、日本は宋に銅銭を輸出した → ○ 宋銭を輸入した

合言葉 「清盛は太政大臣、大輪田泊で日宋貿易」

1 全体像	2・3 桓武天皇	4・5 藤原氏	6・7 国風文化	8・9 武士	10・11 院政と平氏	12 まとめ
-------	----------	---------	----------	--------	-------------	--------

12 平安時代、政治を動かす人は、なぜ移り変わった？

このページのゴール 6つのできごとを表でくらべて、政治を動かす人が天皇 → 藤原氏 → 上皇 → 武士へ移った理由を、荘園や東アジアとのつながりといっしょに言える（1ページの問いの答え）

① 6つのできごとをくらべる

	政治を動かした人	どうやって力をもった（土地・東アジアとの関わり）	変わったこと
桓武天皇の政治	天皇	都を移し、国司の監督を強め、東北地方に大軍を送った。唐で学んだ最澄・空海の仏教が広まった	寺院の勢力からはなれ、律令の政治を立て直そうとした
摂関政治と荘園	藤原氏	娘を天皇のきさきにし、天皇の母方の祖父として摂政・関白に。荘園の収入が力を支えた	公地公民がさらにくずれた
国風文化と浄土信仰	（摂関政治のころ）	遣唐使の停止の後、唐の文化をもとにした文化が生まれた	かな文字の文学と浄土信仰
武士の成長	（武士の登場）	地方の反乱を武士の力でしずめた	武士の力が認められた
院政と保元・平治の乱	上皇	天皇の位をゆずった後も、院で政治の実権をにぎり続けた。荘園が上皇にも集まった	争いの勝ち負けを武士の力が決めた
平清盛の政治	平清盛	太政大臣になり、娘を天皇のきさきに。荘園と日宋貿易で富を得た	武士が政治の実権をにぎった

② 年表

年	できごと	年	できごと	年	できごと
784年	長岡京に都を移す（桓武天皇）	10世紀中ごろ	平将門の乱・藤原純友の乱	1156年	保元の乱
794年	平安京に都を移す	11世紀前半	藤原道長・頼通のころ（摂関政治が最も栄える）	1159年	平治の乱
894年	遣唐使の停止（菅原道真）	1086年	院政が始まる（白河上皇）	1167年	平清盛が太政大臣になる
907年	唐がほろぶ				

③ 問いの答えの例

桓武天皇は、都を平安京に移して政治を立て直そうとしました。やがて藤原氏が、娘を天皇のきさきにして摂政・関白となり、荘園の収入を力にしました。藤原氏の力がおとろえると、上皇が院政を始めました。上皇や貴族の争いを武士の力が決めるようになり、平清盛が太政大臣となって政治の実権をにぎりました。その間に、遣唐使の停止の後、唐の文化をもとにした国風文化が生まれました。

注意 × 平安時代は、ずっと藤原氏が政治を動かした → ○ 天皇の立て直し → 藤原氏 → 上皇 → 武士と移り変わった

確認問題① 桓武天皇の政治・最澄と空海・藤原氏の政治

答えと解説は17・18ページ（9枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

1 桓武天皇の政治について答えなさい。【2ページ】

- (1) 都を平安京に移した天皇はだれですか。また、それは何年ですか。 _____
- (2) 平安京に都が移ってから、鎌倉に幕府ができるまでの約400年間で何をいいますか。 _____
- (3) 桓武天皇が都を移した理由として正しいものを選びなさい。
ア 外国の攻撃に備えて、都を海の近くに移すため
イ 蘇我氏の勢力を倒すため
ウ 奈良の寺院が大きな力を持ち、律令の政治がゆるんだので、立て直すため
エ 平城京が小さくなり、広い都がほしかったため _____
- (4) 平安京の前、784年に桓武天皇が都を移した所はどこですか。 _____
- (5) 平城京と平安京の場所の組み合わせとして正しいものを選びなさい。
ア 平城京＝京都府 平安京＝奈良県 イ 平城京＝奈良県 平安京＝京都府 ウ 平城京＝奈良県 平安京＝奈良県 エ 平城京＝京都府 平安京＝京都府 _____
- (6) 東北地方で、朝廷の支配に従わなかった人々を何といいますか。 _____
- (7) 桓武天皇が、(6)に従わせるために任命した軍の総大将の役職を何といいますか。また、任命された人物はだれですか。 _____
- (8) ○か×を書きなさい。平安京は、奈良につくられた。 _____

2 最澄と空海について答えなさい。【3ページ】

(1) 次の表の（A）～（D）にあてはまる語を書きなさい。

人	宗派	山	寺
最澄	(A)	比叡山	(B)
空海	(C)	高野山	(D)

- A () B () C () D ()
- (2) 最澄と空海は、遣唐使とともにどこにわたって仏教を学びましたか。 _____
- (3) 最澄と空海の仏教の特色として正しいものを選びなさい。
ア 念仏を唱えて、極楽浄土への生まれ変わりを願った
イ 都の中心の大きな寺で、天皇と貴族だけに教えた
ウ 武士の間に広まり、戦いの勝利をいのった
エ 山奥の寺で修行し、国家や貴族のためにいのりを行った _____
- (4) 比叡山のある所と、高野山のある所を、今の府県名で書きなさい。 _____
- (5) ○か×を書きなさい。最澄と空海は、奈良の都の大きな寺で修行した。 _____

3 藤原氏の政治について答えなさい。【4ページ】

- (1) 次の（A）～（C）にあてはまる語句を書きなさい。藤原氏は、娘を天皇の（A）にし、生まれた子を（B）に立てて、天皇の（C）として力をふるった。A () B () C ()
- (2) 天皇が幼いときに政治を行う職（A）と、天皇が成人してから天皇を助けて政治を行う職（B）を、それぞれ書きなさい。A () B ()
- (3) 藤原氏が、(2)の職について実権をにぎった政治を何といいますか。 _____
- (4) 「この世をば わが世とぞ思ふ 望月の 欠けたることも なしと思へば」の歌をよんだのはだれですか。 _____
- (5) (4)の人物の子で、11世紀前半に父とともに藤原氏の政治を栄えさせた人物はだれですか。 _____
- (6) ○か×を書きなさい。藤原氏は、自分が天皇になって政治を行った。 _____

確認問題② 土地と地方の政治・遣唐使の停止・国風文化・浄土信仰

4 土地と地方の政治について答えなさい。【5ページ】

- (1) 朝廷が、地方の政治をまかせきりにするようになった役人を何といいますか。 _____
- (2) 地方の有力者が、自分の土地を守るために、都の貴族や寺社に土地を差し出すことを (A)、差し出された土地を (B) といいます。(A) (B) にあてはまる語を書きなさい。 A () B ()
- (3) 次のア～エを、(2) で差し出された土地が藤原氏に集まるまでの順に並べなさい。
ア 差し出された土地は、税を納めなくてよいなどの特権をもつ
イ 地方の有力者が、土地を都の貴族や寺社に差し出す
ウ 朝廷が、地方の政治を (1) の役人にまかせきりにする
エ 藤原氏などにその土地が集まり、その収入が藤原氏の力を支える _____
- (4) 地方の有力者が、土地を都の貴族や寺社に差し出したのはなぜですか。書きなさい。 _____

- (5) 律令のはじめと10世紀をくらべた次の表の (A) ～ (C) にあてはまる内容を書きなさい。

	律令のはじめ	10世紀
土地	国のもの (公地公民)	(A)
地方の政治	(1) の役人が律令にもとづいて治める	(B)
政治の中心	天皇と太政官	(C)

A () B () C ()

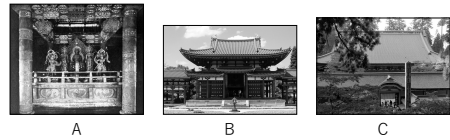
- (6) ○か×を書きなさい。(2) の (B) は、国が人々にあたえた土地である。 _____

5 遣唐使の停止と国風文化について答えなさい。【6ページ】

- (1) 遣唐使の停止を提案した人物と、停止が決まった年を書きなさい。 _____
- (2) 遣唐使が停止された理由として正しいものを選びなさい。
ア 日本が、唐と戦争を始めたから イ 唐から、学ぶことがなくなったから ウ 唐が乱れてきたことと、海をわたるのが危険だったから
エ 唐が、日本に使いを送らないように求めたから _____
- (3) 唐がほろびたあと、10世紀後半に中国を統一した国 (A) と、10世紀に新羅をほろぼして朝鮮半島を統一した国 (B) を書きなさい。 A () B ()
- (4) 国風文化の説明として正しいものを選びなさい。
ア 唐の文化をもとにしながら、日本の風土や生活に合わせた文化 イ 唐の文化とは関係なく、日本でひとりで生まれた文化
ウ 宋の文化を、そのまま取り入れた文化 エ 武士を中心に栄えた文化 _____
- (5) 平仮名と片仮名のでき方の組み合わせとして正しいものを選びなさい。
ア 平仮名＝漢字の一部を取った 片仮名＝漢字をくずした
イ 平仮名＝漢字をくずした 片仮名＝漢字の一部を取った
ウ 平仮名＝漢字の一部を取った 片仮名＝漢字の一部を取った
エ 平仮名＝漢字をくずした 片仮名＝漢字をくずした _____
- (6) ○か×を書きなさい。かな文字ができたので、政治の公式の文書もかなで書かれるようになった。 _____

6 国風文化の作品と浄土信仰について答えなさい。【7ページ】

- (1) 『源氏物語』と『枕草子』の作者と種類の組み合わせとして正しいものを選びなさい。
ア 源氏物語＝清少納言・随筆 枕草子＝紫式部・長編の物語
イ 源氏物語＝紫式部・随筆 枕草子＝清少納言・長編の物語
ウ 源氏物語＝清少納言・長編の物語 枕草子＝紫式部・随筆
エ 源氏物語＝紫式部・長編の物語 枕草子＝清少納言・随筆 _____
- (2) 貴族の住まいで、広い庭と池があり、建物を廊下でつないだつくりを (A)、日本の風景や人々のようすをえがいた絵を (B) といいます。(A) (B) にあてはまる語を書きなさい。 A () B ()
- (3) 浄土信仰は、念仏を唱えて (A) にすがり、死後に (B) へ生まれ変わることを願う信仰です。(A) (B) にあてはまる語を書きなさい。 A () B ()



写真：『Japanese Temples and Their Treasures』1915
(パブリックドメイン)、Suicasmo (CC BY-SA 4.0)、663highland
(CC BY 2.5)。Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った

- (4) 10世紀の中ごろ、都で念仏を広めた人物はだれですか。 _____
- (5) 藤原頼通が京都の宇治に建てた阿弥陀堂を何といいますか。 _____
- (6) 写真A～Cは、平安時代に関係のある寺や堂の写真です。(5) の建物は、A～Cのどれですか。 _____

確認問題③ 武士の成長・上皇と平氏の政治・まとめ

7 武士の成長について答えなさい。【8・9ページ】

- (1) 武芸を専門とする人々が、一族や家来を率いてつくった集団を (A)、(A) のかしらを (B) といいます。(A) (B) にあてはまる語を書きなさい。A () B ()
- (2) 10世紀中ごろの反乱と、起こった場所の組み合わせとして正しいものを選びなさい。
ア 平将門の乱＝瀬戸内海 藤原純友の乱＝関東地方 イ 平将門の乱＝関東地方 藤原純友の乱＝東北地方 ウ 平将門の乱＝瀬戸内海 藤原純友の乱＝東北地方 エ 平将門の乱＝東北地方 藤原純友の乱＝瀬戸内海
- (3) この時代に、武士の力が認められていったわけとして正しいものを選びなさい。
ア 朝廷が自分の力ではしづめられなかった反乱を、武士の力でしづめたから イ 武士が、朝廷の政治を引きついだから
ウ 武士が、宋との貿易で大きな利益を得たから エ 武士が、藤原氏の荘園をすべて取りあげたから
- (4) 源氏は (A) 日本、平氏は (B) 日本に勢力を広げました。(A) (B) にあてはまる方角を書きなさい。A () B ()
- (5) 11世紀後半の東北地方の大きな戦い（前九年合戦・後三年合戦）をしづめて、勢力を広げたのは、源氏と平氏のどちらですか。
- (6) 奥州藤原氏が拠点にした岩手県の地名と、そこに建てた建物を書きなさい。
- (7) ○か×を書きなさい。源氏と平氏は、もとは地方の農民だった。

8 上皇と平氏の政治について答えなさい。【10・11ページ】

- (1) 天皇の位をゆずって上皇となり、院で政治を始めた人物と、その年を書きなさい。
- (2) 天皇の位をゆずった上皇が、院で政治を行い続ける政治を何といいますか。
- (3) (2) の政治と摂関政治のちがいをとして正しいものを選びなさい。
ア 摂関政治は藤原氏が摂政・関白の職で、(2) の政治は上皇が院で、政治を動かした
イ 摂関政治は上皇が、(2) の政治は藤原氏が、政治を動かした
ウ 摂関政治も (2) の政治も、天皇が自分の力だけで政治を行った
エ 摂関政治は武士が、(2) の政治は天皇が、政治を動かした
- (4) 保元の乱のようすとして正しいものを選びなさい。
ア 武士が朝廷に反乱を起こし、天皇と上皇が協力してしづめた
イ 源氏と平氏が、それぞれ一族全体でまとまり、敵どうしになって戦った
ウ 天皇と上皇の争いに、源氏も平氏も、一族が両方に分かれて加わって戦った
エ 平清盛が、天皇の位について政治を行った
- (5) 平治の乱で、平清盛が破った人物はだれですか。
- (6) 平清盛が、武士として初めてついた職と、その年を書きなさい。
- (7) 平清盛は、兵庫の港を整えて宋と貿易を行いました。この貿易を (A)、この港を (B)、宋から輸入した銅銭を (C) といいます。(A) ～ (C) にあてはまる語を書きなさい。A () B () C ()
- (8) ○か×を書きなさい。平清盛は、宋との貿易で、日本の銅銭を宋に輸出した。

9 この単元のまとめについて答えなさい。【12ページ】

- (1) 次の表の (A) ～ (D) にあてはまる語句を書きなさい。

	政治を動かした人	力のもと
藤原氏の政治	藤原氏	天皇の (A) として、摂政・関白の職につく
上皇の政治	上皇	天皇の位をゆずった後も、院で政治の (B) をにぎり続ける
平氏の政治	平清盛	武士として初めて (C) になり、(D) との貿易で富を得た

- A () B () C () D ()
- (2) 次のア～オを、古い順に並べなさい。
ア 上皇が院で政治を始める イ 平治の乱 ウ 平安京に都が移る エ 藤原道長・頼通のころ オ 遣唐使の停止
- (3) ○か×を書きなさい。平安時代は、ずっと藤原氏が政治を動かした。

覚えることの一覧（何も見ずに書けるか、紙でかくして確かめよう）

平安京と坂上田村麻呂（2ページ）

794年、桓武天皇が都を平安京（京都府）に移した（784年には長岡京）。理由＝奈良の寺院の力が政治に強くなり、律令の政治がゆるんでいたから。平安京～鎌倉幕府成立までの約400年間＝平安時代。

桓武天皇が坂上田村麻呂を征夷大將軍（蝦夷を従わせるための軍の総大将）に任命→東北地方に大軍→蝦夷の指導者アテルイが降伏。

最澄と空海（3ページ）

人	宗派	山	寺
最澄	天台宗	比叡山（滋賀県と京都府の境）	延暦寺
空海	真言宗	高野山（和歌山県）	金剛峯寺

摂関政治と荘園（4・5ページ）

藤原氏＝娘を天皇のきさきに→生まれた子を天皇に→天皇の母方の祖父として力をふるう→摂政（幼い天皇に代わる）・関白（成人した天皇を助ける）として実権をにぎる政治。11世紀前半、藤原道長・頼通のころ最も栄えた。

地方の有力者が土地を貴族・寺社に寄進→荘園（税を納めなくてよい）→藤原氏に荘園が集まる→公地公民がさらにくずれる。

遣唐使の停止と国風文化（6・7ページ）

894年、菅原道真の提案で遣唐使を停止（唐が乱れた・航海が危険）→907年、唐がほろぶ→10世紀後半、宋が中国を統一。朝鮮半島は10世紀に高麗が新羅をほろぼし統一。

国風文化＝唐の文化をもとに、日本の風土や生活に合わせた文化。かな文字＝平仮名（漢字をくずす）・片仮名（漢字の一部）。公式の文書は漢字（漢文）のまま。

作品	作者	種類
古今和歌集	紀貫之ら	和歌集（天皇の命令）
源氏物語	紫式部	長編の物語
枕草子	清少納言	随筆

寝殿造＝貴族の住まい（庭と池、廊下でつながる）／大和絵＝日本の風景・人々をえがいた絵。

浄土信仰＝念仏を唱え阿彌陀仏にすがり、死後に極楽浄土へ生まれ変われることを願う信仰。10世紀中ごろ空也が広める→11世紀、貴族にも広まる。平等院鳳凰堂＝藤原頼通が宇治に建てた阿彌陀堂。

武士と武士団・地方の反乱（8・9ページ）

10世紀ごろ、武芸を専門とする武士が力をつけ、一族・家来で武士団をつくる。平将門の乱（関東地方）・藤原純友の乱（瀬戸内海）＝ともに10世紀中ごろ→朝廷が武士の力でしずめ、武士の力が認められる。源氏（東日本。前九年合戦・後三年合戦）・平氏（西日本）＝武士団のかしら（棟梁）。奥州藤原氏＝平泉、中尊寺金色堂。

院政・保元の乱と平治の乱・平清盛（10・11ページ）

1086年、白河天皇（白河上皇）が開始。天皇の位をゆずった上皇が政治の実権をにぎり続ける政治。保元の乱（1156年）＝天皇と上皇の争いに、源氏・平氏がそれぞれ両方に分かれて参加。平治の乱（1159年）＝平清盛が源義朝を破る。

1167年、武士として初めて太政大臣に。娘を天皇のきさきに、生まれた子を天皇に（藤原氏と同じやり方）。日宋貿易＝大輪田泊を整え、宋銭・絹織物などを輸入。

年表（12ページ）

年	できごと	年	できごと	年	できごと
784年	長岡京（桓武天皇）	10世紀中ごろ	平将門・藤原純友の乱	1156年	保元の乱
794年	平安京（桓武天皇）	11世紀前半	摂関政治が最も栄える	1159年	平治の乱
894・907年	遣唐使の停止・唐がほろぶ	1086年	院政が始まる	1167年	清盛が太政大臣に

確認問題の答えと解説

1【2ページ】

(1) 桓武天皇・794年 (2) 平安時代 (3) ウ (4) 長岡京 (5) イ (6) 蝦夷
(7) 征夷大將軍・坂上田村麻呂 (8) ×

奈良の寺院（仏教の勢力）が政治に大きな力を持ち、律令の政治がゆるんだので、桓武天皇は都を移して立て直そうとしました（アは国の守り、イは蘇我氏、エは都の広さで、どれも理由ではありません）。784年に長岡京、794年に平安京へ移りました。平城京は奈良県、平安京は京都府です。東北地方の蝦夷には、坂上田村麻呂を征夷大將軍に任命して大軍を送りました。【2】

2【3ページ】

(1) A 天台宗 B 延暦寺 C 真言宗 D 金剛峯寺
(2) 唐 (3) エ
(4) 比叡山＝滋賀県と京都府の境・高野山＝和歌山県
(5) ×

最澄は天台宗で比叡山の延暦寺、空海は真言宗で高野山の金剛峯寺です。2人は山奥の寺で修行し、国家や貴族のためにいのりを行いました（アは浄土信仰、イ・ウはちがいます）。2人とも遣唐使とともに唐にわたり、奈良の都ではなく山奥の寺で修行しました。【3】

3【4ページ】

(1) A きさき B 天皇（次の天皇） C 母方の祖父
(2) A 摂政 B 関白
(3) 摂関政治 (4) 藤原道長
(5) 藤原頼通
(6) ×

藤原氏は、娘を天皇のきさきにし、生まれた子を天皇に立て、天皇の母方の祖父として摂政・関白の職について実権をにぎりました。摂政は幼い天皇に代わる職、関白は成人した天皇を助ける職です。藤原氏が天皇になったものではありません。【4】

4【5ページ】

(1) 国司 (2) A 寄進 B 荘園
(3) ウ → イ → ア → エ
(4) （例）自分が開いた土地を守るため。（荘園になると税を納めなくてよいなどの特権があった）
(5) A 貴族や寺社の荘園が広がる B 国司にまかせきりで乱れる C 藤原氏が摂政・関白として政治を動かす
(6) ×

国司にまかせきりの地方の政治は乱れ、有力者は土地を守るために寄進しました。荘園は貴族や寺社の私有地で、口分田ではありません。入れる語：「土地を守る」「税を納めなくてよい」（どちらかがあれば正解）。【5】

5【6ページ】

(1) 菅原道真・894年 (2) ウ
(3) A 宋 B 高麗 (4) ア
(5) イ (6) ×

894年、唐が乱れ、海をわたるのも危険だったので、遣唐使は停止されました。国風文化は唐の文化をもとにした日本風の文化です。平仮名は漢字をくずして、片仮名は漢字の一部を取ってつくられました。公式の文書は漢字（漢文）のままです。【6】

6【7ページ】

(1) エ (2) A 寝殿造 B 大和絵
(3) A 阿弥陀仏 B 極楽浄土
(4) 空也
(5) 平等院鳳凰堂 (6) B

源氏物語は紫式部の長編の物語、枕草子は清少納言の随筆です。浄土信仰は念仏を唱えて阿弥陀仏にすがります。平等院鳳凰堂は藤原頼通が宇治に建てた阿弥陀堂で、写真Bです（Aは中尊寺金色堂の内部、Cは延暦寺の根本中堂）。【7】

7【8・9ページ】

- (1) A 武士団 B 棟梁
- (2) ウ (3) ア (4) A 東 B 西
- (5) 源氏
- (6) 平泉・中尊寺金色堂
- (7) ×

平将門の乱は関東地方、藤原純友の乱は瀬戸内海で起こりました。朝廷が自分の力ではし
ずめられなかった反乱を武士の力でしずめたので、武士の力が認められました。源氏と平
氏は天皇の子孫です。【8・9】

8【10・11ページ】

- (1) 白河上皇（白河天皇）・1086年
- (2) 院政 (3) ア (4) ウ (5) 源義朝
- (6) 太政大臣・1167年
- (7) A 日宋貿易 B 大輪田泊 C 宋銭
- (8) ×

院政は上皇が院で行う政治で、摂関政治は藤原氏が摂政・関白の職で行う政治です。保元
の乱は天皇と上皇の争いに、源氏も平氏も一族が両方に分かれて加わりました。日宋貿易
では宋銭を輸入しました。【10・11】

9【12ページ】

- (1) A 母方の祖父 B 実権 C 太政大臣 D 宋
- (2) ウ → オ → エ → ア → イ
- (3) ×

平安京（794）→ 遣唐使の停止（894）→ 藤原道長・頼通のころ（11世紀前半）→ 院政
（1086）→ 平治の乱（1159）の順です。天皇の立て直し → 藤原氏 → 上皇 → 武士と移
り変わりました。【12】